

## わたしの ルーマニア

ルーマニア×武蔵野×ヒト

### 「広がる輪、人の縁に感謝して」

ルーマニア出身  
山田エリーザさん

ルーマニア食文化・料理講座の講師や、ルーマニアの選手や研修生の来日時のアテンドや通訳など武蔵野市のルーマニアホストタウン事業でも大活躍の山田エリーザさん。大学時代に初来日して以来すっかり日本にハマり、ご主人の故郷でもある武蔵野市に移住して来年で20年になるそうです。ルーマニア語講座や個人レッスン、イベント開催などルーマニアの魅力を広める活動をされてきましたが、ルーマニアカフェを開きたいという夢が形となり、創業支援シェアキッチンMIDOLINOで「エリーザ・カフェ」がスタートしました。水曜はルーマニア語教室〜カフェ、土曜はルーマニア料理とルーマニアの文化を絡めた素敵なイベントなども色々と企画されているようです。

山田 エリーザ

ルーマニアトゥルゴヴィンシュテ出身。日本文化に魅了され、独学で日本語を学び武蔵野市に移住。ルーマニア語通訳・翻訳の傍ら、ブラショフ市民の会では20年程前よりルーマニア語講座の講師を務める。武蔵野市がルーマニアのホストタウンとなりオリンピック関係者来日時の通訳兼コーディネーターも行う。ルーマニアワインと郷土料理が楽しめるEliza CAFEを運営。



エリーザカフェのスケジュールはこちら

MIDOLINO  
武蔵野市緑町1丁目5-201F

### エリーザさんへインタビュー

#### エリーザさんが思うルーマニアの魅力とは？

とても気候がよく、豊かな自然に恵まれているところ。ルーマニア人はラテン民族ですが、周辺のスラヴ文化とも少し混ざり合っていて、おほかただけど切なさも持ち合わせる気質が絶妙で素敵です。陽気すぎず暗すぎないルーマニア人は日本人とも合うと思います。

#### ルーマニアと武蔵野市のこれからの望むことは？

27年間もルーマニアとの交流を続ける武蔵野市と人の縁に、感謝の気持ちでいっぱいです。東京2020大会以後もこの縁をつなげていってほしいです。ルーマニアに日本武蔵野センターがあるように、武蔵野にもルーマニアに触れられる場所を作るのが夢なので、地域の皆さんに恩返しできるように今後も魅力的なイベントや文化交流の場を提供していきたいです。

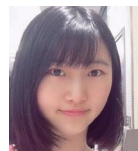
#### ● インタビュー後記 ●

3人のお子さんのママでありながら精力的に活動されているエリーザさん。お忙しい中、多方面でご協力いただきこちらも感謝でいっぱい。明るく温かいエリーザさんの人柄がルーマニアの魅力が一番証明していると感じました！（交流事業課 稲垣）

## 成蹊大学ルーマニア交流プロジェクト 活動報告



7月20日(土)アウトリーチの一環として成蹊大学でも、ウィーン国立歌劇場専属歌手としても活躍したテオドラ・ゲオルギューさんのリサイタルを行いました。当日、私は受付を担当し、開場前から並んでいる方が大勢いたことから今回のリサイタルへの期待の高さを実感しました。また、老若男女問わず多くの方にご来場いただき、幅広い年齢層から支持をされていることも感じました。生で聴くテオドラ・ゲオルギューさんの歌声は、音がとてものびやかで胸がドキドキしました。高音だけでなく低音もとてもきれいで日々の疲れを癒してくれるひと時となりました。ルーマニアの伝統民謡曲「ドイナ」には様々な感情が込められており、1曲の僅かな時間で曲の雰囲気が変わり、私の感情も大きく動かされました。今後、もしリサイタルを行うことがあれば、必ず聴きに行きたいと思っています。



(2年生 宮本悠香)

## JOIN&SUPPORT

ホストタウン事業に参加・協力しよう！

### ルーマニアホストタウンサシノ サポーター登録

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、ホストタウンとしてルーマニアを応援し、一緒に地域を盛り上げる仲間を募集しています。文化やスポーツを通じた感動や交流と一緒に体験しませんか？サポーターに登録すると、各種イベント情報が登録したメールアドレスに届きます。



サポーター登録は  
こちらから

サポーター登録、募金方法については、  
武蔵野市交流事業課までご連絡ください。

武蔵野市交流事業課内 ルーマニアホストタウン推進実行委員会事務局  
TEL:0422-601806 Mail:SEC-KORYU@city.musashino.lg.jp

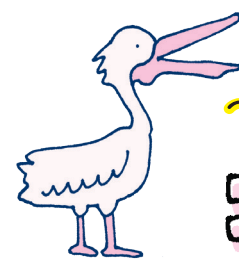
### 夢に挑む 戦う パラ選手たちへエールを

### ルーマニア パラアスリート募金

各国のパラリンピック組織委員会はオリンピックと比べ資金が十分とは言えない状況です。ルーマニアも例外ではなく、海外での十分な練習をするためには引き続きみなさんの支援が必要です。



募金は  
こちらから



モモイロペリカンは  
ルーマニアの国鳥です

～ルーマニア ホストタウンムサシノ～

# モモイロペリカン通信

vol.3

イベント  
告知

## ルーマニア野外映像祭

武蔵野市が東京オリンピック・パラリンピック競技大会でホストタウンをつとめるルーマニアの現在を知る、一夜かぎりの映像祭を開催します。

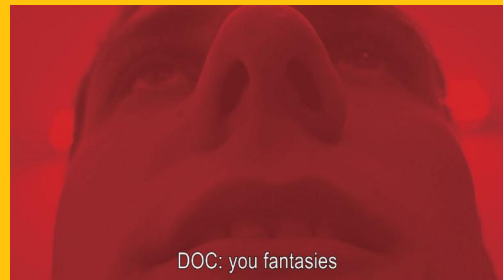
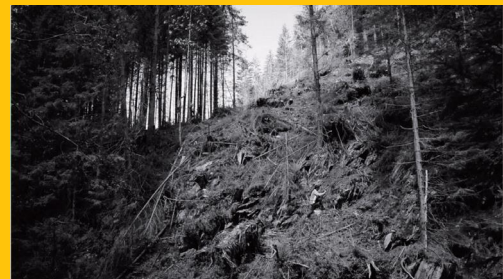
Autumn

2019 / 秋号



日時：2019年9月28日(土)  
16:00～20:30  
会場：境南広場ふれあい公園  
(武蔵野プレイス前)

無料



DOC: you fantasies



1989年のルーマニア革命によって当時の独裁政権が打倒されてから30年。本企画は、激動の時代を経て目覚ましい発展を遂げたルーマニアの現在を身近に感じることのできる映像祭です。今回紹介する映像作品は、映画やドラマのような明確なストーリーがあるものとは少し異なります。共産独裁体制時代を省みることのできるような短編映像や、ルーマニアの荒々しい自然を切り取った詩的な映像、また今を生きるルーマニアの若者たちの生活を想起させるような会話だけの映像まで、ルーマニアのカルチャーシーンの第一線で活躍するアーティストたちによる多種多様な作品を用意しました。

- ルーマニア映像作品上映 (19:00～)
- 「ちいさな英雄」特別上映 (17:45～)

スタジオポノック短編劇場「ちいさな英雄—カニとタマゴと透明人間—」を特別上映します。

武蔵野市にあるスタジオポノックは、国際オリンピック委員会と共同制作により、オリンピズムをテーマに短編アニメーション映画を制作中です。

民族音楽のほか、ルーマニア料理やワインが楽しめるブースやキッチンカーも登場します。ぜひお越しください。

※雨天時は武蔵野プレイス内フォーラムにて映像上映のみ18時すぎから開催。定員に限りがあるため先着順。(当日、市フェイスブックに掲載)



春の訪れを感じる  
ルーマニア食文化・料理講座

3月10日(日)山田エリーザさんを講師に迎え、吉祥寺の二葉栄養専門学校にてルーマニア食文化・料理講座を開催しました。講義でルーマニアの食文化や歴史などを学んだあとは、調理実習で春のサラダと卵料理を作り、試食会ではルーマニアワインや伝統的な菩提樹のお茶とともにエリーザさんお手製の家庭料理をいただくという盛りだくさんの内容となりました。参加者の皆さんは初めて食べるルーマニア料理に、「おいしい！家でも作りたい！」「伝統や歴史と絡めて食文化を知れて面白かった」と大好評でした。定員64名を超える応募があり大盛況のうちに終えた今回のイベント、食べ物を通してルーマニアを理解し、ルーマニアを身近に感じるきっかけとなったようです。



アンチエイジングの国ルーマニアは、食にも美と健康の知恵が豊富！

ルーマニアの歌姫 テオドラ・ゲオルギューさんが  
25年ぶりに武蔵野市を訪れました

1994年、当時16歳だったテオドラ・ゲオルギューさんは、武蔵野市含め7市合同でルーマニアのブラショフから招いた少女合唱団「カメラータ・インファンティス」の一員として来日しました。今回25年ぶりに武蔵野市を訪れ、7月21日(日)武蔵野市民文化会館にてソプラノリサイタルを開催。素晴らしい歌声を披露しました。リサイタル後には歓迎交流会を行い、ホストタウンサポーターなどとともにリサイタルの成功を祝いました。交流会では当時の映像を見て懐かしんだり、市民の方との25年ぶりの再会を喜ぶ場面もあり、笑顔あふれる時間となりました。4日間という短い滞在の中、市役所への表敬訪問、第三小学校や成蹊学園へのアウトリーチも行いました。第三小学校では児童らと「ふるさと」を歌うなど、充実した交流の機会になったようです。



表敬訪問にて松下玲子市長と



歓迎交流会で来場の皆さんと

ルーマニア・マニアへの道 その3

森の彼方の国～Transilvania～  
トランシルヴァニア地方大解剖

今回は、ドラキュラ伝説だけじゃないトランシルヴァニア地方の生活文化にスポットをあて掘り下げます。「森の彼方の国」と呼ばれるこの地方は、支配する国が何度も代わるといって複雑な歴史があります。第一次世界大戦までハンガリーに属していたため、現在でも100万人以上のハンガリー人少数民族が暮らしています。また、17世紀にはトランシルヴァニア公国として独立していた時期もあり、ハンガリー人、ルーマニア人、ドイツ系ザクセン人が共存していました。

昔ながらの生活村スタイルを守るハンガリー民族の村

カロタセグ地域

クルージ・ナポカから西へ50kmほどの村々。フォークロアの宝庫として特に有名で、歌や踊り、衣装、民芸品などどれをとっても特徴のあるものばかり。イベントレポートのイーラーショシュの刺しゅうはこのカロタセグのいくつかの村でずっと古くから受け継がれてきたものです。

シク村

民族衣装が特徴的で、アコーティオンのようにたっぷりプリーツをつけた大きな袖のある白いシャツ。男女とも日曜日や祭日には民族衣装で着飾り、教会へ向かう。そんな古くから受け継がれてきた風習が今でも残る村です。



シク村の民族衣装

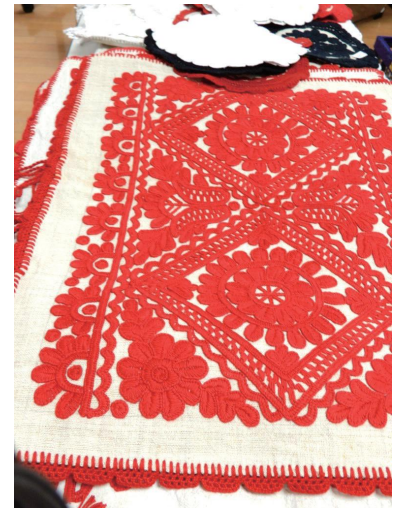
トランシルヴァニア～森の彼方の物語～  
刺しゅうワークショップとおはなし

6月28日(金)ルーマニアのトランシルヴァニア地方在住で伝統手芸研究家の谷崎聖子さんを講師に迎え、刺しゅうワークショップを開催。イーラーショシュのブローチに挑戦しました。参加者の皆さんは、最初は悪戦苦闘されている姿も見られましたが、慣れてくるとどんどん針が進んでいました。また、「四季折々の自然に寄り添う人々の暮らし」と題し、ルーマニアに暮らす谷崎聖子さんならではのお話もあり、各地域のさまざまな伝統行事が紹介されました。そこには、ゆっくりと流れる時間の中で、季節を感じながら丁寧に暮らすルーマニア人の姿がありました。



ルーマニアのブラウス展

6月29日(土)～30日(日)にアトレ吉祥寺にて、谷崎聖子さん出展によるルーマニアのブラウス展を催しました。マティスの絵画でも知られる、ルーマニアの刺繍ブラウス。ルーマニアの各地を旅するように、極上のブラウスが一堂に集められ、展示されました。

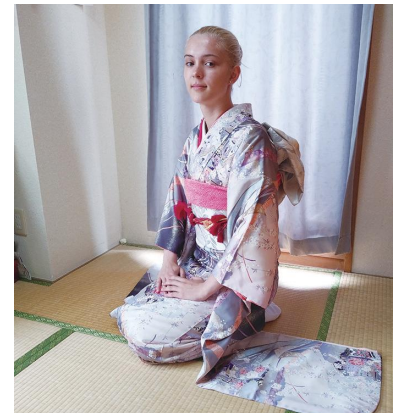


参加者の声

- ・先生がとても親切に教えてくださり、よくわかった。憧れのルーマニア刺しゅうを体験でき幸せでした。
- ・知らない国の知らない文化に触れて、良い経験になりました。他のルーマニア情報にも興味を湧きました。

ブラショフ日本武蔵野センター研修生  
オティリアさんが来日

武蔵野ブラショフ市民の会が招聘する研修生は今年で21人目。オティリア・イシュトックさん(19歳)が、7月30日(火)～8月29日(木)まで滞在しました。オティリアさんは、日本武蔵野センターで日本語を学び始めて2年、とても流暢な日本語でした。センターのハードな授業にもついてきたかなりの努力家だそう。来日中は、ブラショフ市民の会やルーマニアホストタウンサポーターのお宅にホームステイをして日本の家庭の暮らしを体験しながら、日本語や日本文化を学びました。着付けや茶道、懐石料理教室、成蹊小学校の児童と交流、成蹊大学ルーマニアプロジェクトメンバーとの浅草巡りなど盛りだくさんのプログラムでした。



トランシルヴァニア地方の代表的な都市

ブラショフ

武蔵野市の友好都市です。中世の街並みを残す美しい古都。黒の教会が有名。

シナイア

18世紀ごろブカレストの王侯貴族たちの別荘地として繁栄した。ルーマニアの他の都市にはない街並み。

クルージ・ナポカ

たくさんの国立や私立の大学が集中する大学の町。

シビウ

ヨーロッパ三大演劇祭の「シビウ国際演劇祭」が行われることで有名。



シビウ国際演劇祭

世界遺産 トランシルヴァニア地方の要塞教会

13世紀からトランシルヴァニア地方に移住してきたドイツ系ルーマニア人たちは、オスマン帝国などの侵攻に村民を守る強固な、城壁の厚い要塞を建てる必要に迫られました。村の中心部教会の聖堂は見張り台の役割を果たし、その周囲には防壁が築かれました。それを「要塞教会」と呼び、この地方独特の建築物として一部は世界遺産に登録されています。



トランシルヴァニアの要塞教会